

# 入試改革「実施方針」 を正確に読む！

## 【Part.2 各大学 個別入試】ポイントを箇条書き！

旺文社 教育情報センター 29年7月31日

文科省は今年13日、入試改革に関わる一連の資料「高大接続改革の実施方針等の策定について」(いわゆる「実施方針」)を公表した。これまで議論を重ねてきた入試改革がいよいよ本決まりとなり、33年入試での実装に向けて動き出したことになる。

高校・大学現場ではまず、これらを正確に読み込むことが何よりも必要だ。そこで本記事では、実施方針の内容を箇条書きにしてまとめた。全3回に分け、各記事はそれぞれ以下の資料を扱っている。

### 【Part.1 共通テスト】

「大学入学共通テスト実施方針」

「大学入学共通テスト実施方針策定に当たっての考え方」

### 【Part.2 各大学個別入試】「平成33年度大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告」

### 【Part.3 基礎診断】

「『高校生のための学びの基礎診断』実施方針」

本記事ではPart.2として、各大学の個別入試について見ていく。なお記事中では以下の表現をしている。

- ・3要素 … 学力の3要素(「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性」)
- ・新カリ入試 … 新学習指導要領での入試

## 全体

- ・「学力の3要素」を多面的・総合的に評価する入試に転換。
- ・大学はAP(アドミッション・ポリシー)に基づいて「3要素」を評価。
- ・大学は各入試区分で行う評価方法やその比重などを募集要項で明確化。
- ・32年度に行う33年入試から着実に導入しつつ、新カリ入試でさらなる制度設計。
- ・一般、AO、推薦のあり方を見直し。
- ・各入試区分は、名称と日程を以下のように変更。

### 【推薦入試 ⇒ 学校推薦型選抜】

出願11月以降(現;ママ) ⇒ 合格発表12月以降(現;なし)(合格発表は一般選抜)



価となると、指導要録を改訂して新カリ入試からの入試利用になるが、今回の「3要素」の評価は入試改革の初年度（33年入試）から導入される方向だ。推薦書における記載がどのようなものになるのかは、今後の詳細を待つことになる。



## 一般入試(一般選抜)

- ・「主体性」を評価するために、調査書、志願者本人が記載する資料などの積極的な活用を大学に促す（そのほか、エッセイ、面接、ディベート、討論、プレゼン、大会・顕彰の記録、総合学習の成果 など）。
- ・調査書やその他の資料などをどのように活用するのか、大学は募集要項に明記。
- ・すべての受験生を対象とした「3要素」のより効果的な評価方法等は、新カリ入試に向けて継続的に検討。
- ・大学は「思考力・判断力・表現力」を評価するために、共通テストを積極的に活用。
- ・個別入試も見直し・充実（少数科目の見直しなど）。
- ・大学は例えば国語を中心に、記述式の導入・充実に取り組む。その際、評価する能力や出題の意図を明示するように努める。
- ・センターは共通テストとは別に、各大学の個別試験用の国語の記述式（&採点基準）を用意することも検討（200～300文字を想定）。
- ・大学は、英語は4技能を評価するように努める。

### ■ 解説 ■

一般入試での「主体性」の評価は、全受験生に必須なのか、一部で課されるのか。上述「●一般入試（一般選抜）」の最初の3点を見てみよう。

大学側の調査書や提出書類、面接等の活用は、「必須化」ではなく「促す」という表現に留まった。その活用方法を募集要項に明記はするが、すべての入試方式でもれなく「3要素」を評価しなければならないのかなどはわからない。また、全受験生を対象とした「より効果的な評価方法は」新カリ入試へ見送りとなった。

文科省によれば、現在の入学者選抜実施要項でも、大学は調査書を提出させること、活用することが記載されている。この点では大学入試そのものが、すでに「主体性」の評価をすることになっている。ただし、実際どう活用するのかについてはボンヤリとしているため、今回の改善で、大学に活用方法を募集要項で明記させ、実質化を図ったということだ。

結局、必須なのかどうか、現時点ではかなりの曖昧さが残る。今後の説明に期待したい。

なお、センターが検討している各大学の個別入試用の記述式（国語）の問題は、利用するとすれば国公立大になる（同一日での実施が必要になるため）。国公立大の2次で国語を課す大学が増える可能性があるので注意されたい。





